

金沢JC

わがLOMのシニアクラブ

卒業して本当のまちづくりに活躍するJCCOBたち



今年のゴルフコンペより

金沢JCシニアクラブは、1966年に設立され、初代代表幹事を務めた小倉慶春から39代代表幹事の杉雄二まで、39年にわたり活動を続けてきました。

金沢JCの歴史は52年、大阪JCをスポンサーとして認証番号20番に誕生(幻の認証番号7番という伝説があります)が、今日まで52年の歳月を数え、国内のJC同様、その活動歴は指導力開発に始まり、青少年開発、社会開発、地域開発等と広がりを見せてきました。また、早くからまちづくりに積極的に取り組んできましたが、96年に開催したJCIIA SPAC金沢はそれまでの運動が集積されたもの一つでしょう。

また、88年から始まった「フードピア金沢」も今では街を挙げてのイベントに発展し、冬の金沢の風物詩になった感があります。このようにJC活動を通して多くの事業を体験したメンバーは、北陸の政治、経済界の中心的存在として地域社会のためにそれぞれ幅広く活躍しています。

シニアクラブは代表幹事と直前代表幹事、担当幹事の他、各卒業年度の幹事で、運営、役員は70名を超え、会員は717名

に現役を合わせると953名が参加しています。年間行事として総会、夏には現役メンバーとの合同例会、ゴルフコンペなどが催され、毎回多くが参加し、現役時代の思い出に花を咲かせるなど旧交を温める場になっています。

今でも現役メンバーの活動にシニアは、物心両面にわたり支援しており、特に現役メンバーと共に取り組む「県都政令市推進経済人会議」は地方分権、地域主権が進む中、政令指定都市を目指し、熱心に取り組んでいることから各方面から大きな関心が寄せられています。

この他、商工会議所、経済同友会、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、法人会など各経済団体やNPOはもとより、PTAなどの地域社会の活動にも積極的に参加、それぞれがいろいろなフィールドで指導的な役割を担うなど、JC経験者が持つ気概は金沢の街の発展のために大きな役割を担っています。

◎金沢JCシニアクラブ

担当幹事 石動博一



今年度の代表幹事を務める小杉氏



シニア合同例会の壇上で挨拶する浅田裕久先輩